

【平成29年度大会】

招待講演

講演要旨：金 憲秀、成 周昊

韓国保険学会の持続的成長戦略一要旨

順天脚大学 金 憲秀、慶熙大学 成 周昊(李芝妍 訳)

1. 韓国保険学会の紹介

韓国保険学会は1964年5月2日に創立総会を経て設立され、同年に保険学会誌の創刊号が発刊された。

1971年12月2日、財務部(現在は企画財政部)の認可を得て社団法人として登録され、保険理論と実務(theory & practice)に関する研究と懸案問題を探ることで、保険学および保険産業の発展と保険消費者の保護に貢献している。

周知のように、学会の持続的成長は登録会員数の安定的な増加と適切な年齢別構成比(age structure)に基づく。しかし、韓国保険学会は高齢化問題に直面している状況である。

現在、学会の登録会員597名の中で保険専攻の教授は約16%に該当する97名であり、新規の保険専攻教授の増加は微々たる水準であるため、教授陣の高齢化は益々加速すると予測される。(下記の表を参照)

(保険学会登録 2017.09.01 現在) 保険専攻および非専攻教授の年齢構造		
年齢	人員	%
30-34	1	0.65%
35-39	4	2.61%
40-44	10	6.54%
45-49	19	12.42%
50-54	21	13.73%
55-59	39	25.49%
60-64	34	22.22%
65+(退職教授)	25	16.34%
合計	153	100.00%

(保険学会登録 2017.09.01 現在) 保険専攻教授の年齢構造		
年齢	人員	%
30-34	1	1.03%
35-39	3	3.09%
40-44	5	5.15%
45-49	13	13.40%
50-54	15	15.46%
55-59	25	25.77%
60-64	23	23.71%
65+(退職教授)	12	12.37%
合計	97	100.00%

2. 大学における保険教育の現状

現在、保険専攻学科(Department of Insurance Study)は4年生大学(189校)の中で13校の大学に設置されており、専門大学(2年制)は2校に設置されている。ところで、1999年に生涯教育法が改正され、遠隔大学形態の生涯教育施設の設置が可能となった。そこで、2001年から現在までに18校のサイバー大学が新設され、その中の5校が保険関連専攻を運営している。また、専攻学科は設置しておらず、保険関連専攻の教授が保険講座(保険学原論、保険法、保険計理、保険経営など)を定期的に一科目以上開講している大学は44校である。

最近、4年制の大学で新規に採用された保険専攻教授は3名(2017年1名、2016年2名)であり、韓国経済の高齢化および少子化の現状を考慮すると、将来的に改善される可能性は低いと考えられる。また、保険専攻学科の統廃合が地方の大学を中心として徐々に展開される可能性もある状況である。

【平成29年度大会】

招待講演

講演要旨：金 憲秀、成 周昊

最近、瑞園大学(忠清南道に所在)と原州大学(江原道に所在)の保険学科が経営学部に統廃合された。今後、保険専攻学科は徐々に経営学部体制に編入される可能性が高いと予測されている。従って、新規の保険学者に対する大学当局の需要が停滞もしくは減少する可能性が高いため、学会登録の教授陣の高齢化は持続すると予見できる。よって、これらを解消する努力は学会レベルでの新たな挑戦課題(challenging mission)にならざるを得ない。

3. 学会活性化の取り組みと戦略

学会レベルで上記のような新たな挑戦課題に対応する学会の取り組み(存続及び発展戦略)は以下のように要約される。すなわち、

① 保険学に対する社会的関心を誘導する努力

- ・「正しい保険教育委員会」を常設機構として設置することで、小中高の教科内容に保険の必要性と保険の社会的機能などを義務的に教えられるように政府と持続的に議論している。
- ・毎年「全国保険関連学科の連合学術大会」の開催に財政的な支援を行っている。
- ・2017年に「未来保険学者 TF」を新設し、保険学に興味のある大学生と修士・博士課程の学生に情報提供および人的・国内外ネットワークを提供し、未来の保険学者(Future Insurance Scholar)として成長できる人的・物的支援を施行する。
- ・「保険知識フォーラム」を平均的に毎月開催し、保険業の従事者および学生らに保険に関する懸案問題をセミナー形式で提供している。

② 海外学術大会への参加を通じた国際交流を誘導する努力

- ・毎年「APRIA, ARIA および EGRIE セミナー」の発表者に対して財政的に支援している(毎年、1千万 Won の予算範囲内において支援し、学生も同様に支援する)。
- ・“East Asia Risk Management & Insurance Workshop”に参加もしくは主催する場合、財政的に支援する。

③ 優秀な研究を誘導する努力

- ・毎年「新人学者の研究支援事業」を実施し、新規に採用された教授の研究を集中的に支援している(約1千万 Won の予算を設定しているが、最近は新人学者の流入が減少し、予算全額は執行されない実情である)。
- ・毎年「先導研究課題支援事業」を施行しており、これは大学教授の研究を奨励する研究費支援事業である(約3千万 Won の予算を設定しており、獲得のための競争が激しい)。
- ・保険学会誌を韓国研究財団の登載誌(1級誌)の地位を維持するため、編集委員会の支援事業を持続的に運営している(韓国研究財団は3年ごとに学術誌を評価し、登載誌、登載候補誌、非登載誌に再分類している)。

最後に、上記のような財政支援事業が可能な主な根拠は、毎年「生命保険社会貢献委員会」から学術支援金(2009年から毎年受領している)を1億5千万 Won の支援を受けていることに起因している。